

平成 27 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対談 (鳥羽市) 会議録

- 1 開催日時: 平成 27 年 8 月 24 日 (月) 13 時 00 分～14 時 00 分
- 2 対談場所: 鳥羽マリンターミナ 2 階 交流ラウンジ
(鳥羽市鳥羽 1 丁目 2383-51)
- 3 対談市町名: 鳥羽市 (鳥羽市長 木田 久主一)
- 4 対談項目:
 - (1) 人口減少対策の推進について
 - (2) 離島振興施策の推進について
 - (3) 第 76 回国民体育大会開催に係る支援について
 - (4) 「日本一海女の多い“県”」としてのプロモーションの展開について
 - (5) 地域減災力強化推進補助金の三重県の方向性について

5 会議録

(1) あいさつ

知 事

みなさん、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、木田市長におかれましては、1 対 1 対談のお時間いただきまして、ありがとうございます。来年の 5 月 26 日・27 日に伊勢志摩サミットというのが決定したわけでありまして、鳥羽も含めて伊勢志摩地域として多くの方々にお越しいたきますし、様々ご協力いただく事多々あると思いますので、是非とも今後ともよろしく願い申し上げます。県民会議の方でも役をさせていただいて、木田市長には、多大なご尽力をいただいている事、改めて感謝申し上げます。そういう来年のサミットもさることながら、来年伊勢志摩国立公園 70 周年という事で、今年イベントという事で、Sea 級グルメの全国大会も鳥羽でやっていただくという事でありまして、その 1 週間後くらいには海女サミット、今年は鳥羽の答志島でやっていただくという事で、今年後半から来年にかけて様々なイベント目白押しというようなところであります。どうか地方創生の折でありますので、鳥羽市挙げて情報発信していただきたいと思っておりますし、県としましても、しっかり共に取り組んで参りたいというふうに思っているところであります。今日は、限られた時間でありまして、素晴らしいお天気・風景のもと、木田市長と 5 回目の 1 対 1 対談になるかと思っておりますけれども、有意義に過ごして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

鳥羽市長

みなさん、こんにちは。大変お忙しい中を多数の方にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。また、鈴木知事におかれましては、5回目の1対1対談という事で、本当に29市町全てを回って意見を聞こうという、そういう真摯な態度に日頃から感謝を申し上げます。年は、私の方がどちらかというとお父さんという感じなのですが、日頃本当に頑張っていて、鳥羽市私たちにとりましては、私たちのお父さんという感じで、日頃から色んなご無理も申しあげているところがございます。先程知事さんから言われましたように、伊勢志摩サミットとか海女サミットはじめ色んな事があって、県のみなさんには、ご協力をいただいております。今日も鳥羽市の懸案など色々言わせていただきますけれども、1対1対談という事ですので、私の方からの要望合戦という事は、これは避けたいなというふうに思っております。私も各地へ地区懇談会というので行くのですが、大体が要望を聞いて帰ってくるという事になりますので、日頃から考えておられる事、知事さんのお考え等を、興味深い事を色々お話聞けたらありがたいなと思います。本当に今日はよろしくお願いたします。

(2) 対談

1 人口減少対策の推進について

鳥羽市長

ありがとうございます。1番目の「人口減少対策の推進について」という事なのですが、これ前回の1対1対談の時に予定になかった事を、私勝手に時間を取らせていただいてこの事でお話をさせていただいたという覚えがございます。これを1番目に持ってきたのは、今の鳥羽市だけではなくて、今の日本全体が一番大きな問題、これがこの人口減少対策だというふうに日頃から思っております。鳥羽市においても人口がどんどん減っていく中で、当然交付税も減ってくる、そして色んな税金が減っていく、収入が減っていく中で、本当に厳しくなっていくなという感じを受けております。例えば、土地の値段等でも人口が減れば、当然需要が減ってくるわけで、土地を手に入れる競争等もなくなってくる、そうすると、値段が下がっていく、それから、学校等も学校へ行く子どもたちが少なくなってくるわけですから、色んな弊害が出てくるという事で、これが私も長い間市長させていただいて一番気になっている事なのです。そして、今までやはり働く場所が一番大事だという事で、玉城町のように大きな会社に来ていただくと人口減らない、逆に増えている所もあるわけで、なんとか鳥羽市に働く職場を作りたいという事でやってきたのですが、

なかなかこれが難しいのです。それで、大きな町と町の間には大きな道路があって、そこからすぐの所ですと、案外工場立地もできるのですけれども、鳥羽や熊野方面のような袋地になっているような所は、なかなか公募もできないという現状なのです。それで、鳥羽市としては、こちらの方も力を入れながら、仕事を作るといふ事も力を入れながらですけれども、子育て支援という事に今まで力を入れてきました。そして、結婚する人たちを増やそうという事で、「海辺のまち鳥羽出逢い応援事業」とか、鳥羽に住んでもらえる若い人に「鳥羽の定住応援事業奨励金」を作ったり、中学3年生までの医療費の無料化、保育所2人目以降の無料化、こういった事を三重県の中でも先駆けてやってきたのですけれども、効果は少しあるのですけれども、抜本的なものに至っておりません。それで、これは、三重県だけでも少ないかも分かりませんが、日本全体で取り組まなければならないのですけれども、こういった人口減少対策に県としてどういうふうに向かっていたか、その辺りを知事さんの抜本的な考え方を聞かせていただきたいなというふうに思います。

知事

はい、ありがとうございます。人口減少対策という事で、特に改めてですけれども、人口減少には2種類あって、1つは自然減対策、死亡と出生の関係です。それと、転入・転出の関係の社会減、この2つがあるわけでありまして。だいたい三重県全体でいくと、ざくっと言うと、自然減、死亡数が出生数を上回ったという事で、毎年だいたい5千人くらい自然減で三重県全体で減っています。社会減、転入よりも転出が上回る事で3千人くらい減っています。県全体で見ると、自然減の方がより深刻というような状況でありますけれども、社会減もどんどん過去と比べると増えてきておりますので、その社会減についての対応も大変重要になってくるというような事でもあります。そこで、今回この9月に地方創生の総合戦略の最終案を議会の方にも出させていただく予定をしておりますが、そこでは、社会減については、学ぶ・働く・暮らす、この3つのライフシーン毎にそれぞれ対策を考えようと、自然減については、結婚・妊娠・出産・子育て・働き方、こういうライフステージ毎に対策を考えようというような事をしていきます。自然減の部分については、今木田市長おっしゃっていたとおり、特に鳥羽市は県内の中でも先進的な取組を大胆にやっていたところでもあります。先程木田市長からご紹介なかった部分でいくと、不育症ですね。不育症というのは、2回連続して流産してしまうケースですけれども、その不育症の助成金も鳥羽市が率先してやっていたら、それを県も真似て全県的に展開しているというような事もありますので、自然減について大変積極的な取組をしていただいている事に感謝申し上げたいと思います。そこで、

社会減なのですけれども、これが、特に三重県においては、学ぶ場の転出、高校で県外へ行ってしまふ、大学で県外へ行ってしまふ、それであまり戻ってこない、というような状況が結構ありますので、そこに抜本的にメスを入れていかないといけないだろうと。特に大学は、4年制大学に行きたいと思う人が三重県内だいたい8千人くらいなのですけれども、その内三重県内の大学の定員が3千人くらいしかありませんので、これいわゆる大学収容力指数と言いますけれども、これが全国46位という事で、4年制大学に行く人に比べて大学の定員が極めて少ないという事であるわけですが、そういう状況ですので、この高等教育機関の部分について、定員を増やすという事ももちろん色々国に働きかけていきますけれども、これから人口減少が加速して行って子どもの数が減っていくので、定員増というのはなかなか難しいかもしれませんが、学びたいと思える内容がある、あるいは、現在の高等教育機関が魅力的なものになる事で、県外に行かずに三重県内で学んで、そのまま三重県内で働こうと思ってもらえるように、今高等教育機関のみなさんと学長のみなさんと定期的に会合やらせていただいています。一つは、大学、高等教育機関のコンソーシアムで、一つの大学だけで考えるのではなくて、13ある高等教育機関で魅力発信をしたり、あるいは、単位互換とかを将来的にはやってみようとか、そういう形で魅力発信をしようと思っておりますし、その高等教育機関、大学の学部とか学科の再編、そういう事についても検討してもらおうと思っておりますし、特に看護大学とかを中心にしてですけれども、地域卒を増やしてもらふ、三重県内の子どもたちに入ってもらふ地域卒を増やしてもらふ事とかも取り組んでいこうという風に思っています。今昨日からちょうどスタートしたのですけれども、特に高校の部分などにおいて、高校でも県外とか行く子が結構いますので、高校も魅力的な内容に出来るような選択肢が増えるような検討会が昨日から少しスタートしたところでありまして、人口が増加する時は普通科の学校をたくさん増やしてくれという要望が歴史的にはあったのですけれども、人口が減少していくと、むしろものづくりに特化したものとか、食に特化したものとか、農業や漁業に特化したものとか、そういう特徴ある高校を作ってほしいという要望が今全県中からきていますので、やはりそういうタイミングでありますから、ここで県立高校の教育についても今一度考えるべき時という事で、現在検討会をスタートしているところであります。あとは、今移住を進めているところで、4月から東京に移住相談センターもできましたが、約3ヶ月で190件の相談がきています。海の近くで働きたい、あるいは、海女さんになってみたい、あるいは、カフェをやりたい、というような様々な要望がきています。それを各地域で根ざしてもらえるように市町と連携して、一人でも多く移住者を呼び込めるようにしたいと思います。それから、他県ではやっけてこれまで三重

県でやってこなかった事なのですけれども、三重県と県外の大学で協定を結んで、三重県出身でその大学に行っている子に「三重県ではこんな働く場があるよ」という情報提供とか、あるいは、Uターン就職志望の強い女性にそういう情報を提供したりとか、そういう大学との協定みたいなものも結んでいこうという取組をこれからスタートしたいと思っています。ちなみに、うちと同じく大学収容力指数の低い長野県は、全国27の大学と協定を結び始めていて、そういう直接情報提供をしてもらって、一人でも多く戻ってきてもらうように努力しているようですので、そういう事もしっかきやっつけていきたいと思っています。今少し人口減少の学ぶ場のところを中心としてお話をさせていただきましたけれども、大変深刻な問題ですし、一朝一夕に結果は出ないかもしれませんが、今取り組まなければ必ず手遅れになってしまうと思っておりますので、危機感を持って市町のみなさんと連携して取り組んでいきたいと思っています。

鳥羽市長

ありがとうございます。県としても色々な事考えていただいているという事で非常にありがたいのですけれども、先程ちょっと言わせていただいたように、工場を誘致しようと思っても、距離の問題、道路の問題で来てくれないという事があるのです。それは、ある程度分かるのです。やはり、コストの事もありますから。けれども、物を作ったりする場合、原材料も入れないといけない、出来た製品も運び出さないといけないという事ですけれども、教育とかはあまり関係なくて、普段はそういう物を運ぶという事がないわけです。一旦来ていただいたら、そこでゆったり勉強していただくという事を考えると、やはり便利の良い三重県の北部の方は工場誘致、そういったものに力を入れていただいて、南部の方は、そういった物流の問題がありますので、その代わりに静かな良い自然環境がありますので、学校の誘致とか、いわゆるマイナス面が強調されないような業種を三重県とか鳥羽市とか志摩市とか、あるいは、尾鷲・熊野方面に考えていただくという事が必要なのではないかと。やはり、一部の所がグーッと良くなって、あとは寂れてしまうのではダメだという、その辺りを常に三重県さんとしては、これは道路あんまり関係ないなというものは、こちらへ持ってきていただく努力をしていただく、そういう考え方はどうでしょうか？

知事

そうですね。例えば、大分県の別府市に立命館アジア太平洋大学というのが行ったり、あるいは、秋田県の何市か忘れましたがけれども国際教養大学というのが行ったりというような形で、普通に全然公共交通機関とか便利でないけれ

ども就職率 100%とか、海外から 150 ヶ国くらいから人が来るような大学が誘致している成功例もありますので、同じような形がいいのか、あるいは、この県内の高等教育機関を再編しながらその適地を見つけていくというのがいいのかはありますけれども、学ぶ場とかその物流で差が出ないようなものについて、積極的な誘致を図るといような事については、大変重要な事だと思っております。ですので、それと直接関係あるか、いけるかどうかは分かりませんが、いずれにしても、南部地域活性化基金と南部地域活性化プログラムのリニューアルを今ちょうど議論しているのですが、そこにおいては、今までの市町の連携というのもしっかりとやってもらいつつも、定住とか住む人が増えるような事業を重点化していくというか、そういうようなリニューアルを考えていますので、今おっしゃっていただいたような地域特性、あるいは、地域のディスプレイが強調されないようなものもしっかり誘致という事は、よく念頭に置いた上でやっていかないといけないと改めて思っているところであります。

鳥羽市長

最後に、そういう企業誘致も、あるいは、学校の誘致等お願いしたのですが、根本的には、日本の国自体が子どもを産み育てる社会に変えていかないといけないと思うのです。その事を、自分たちも親に産んでもらってこのようにこれたわけですので、その義務を果たせとは言いませんけれども、やはり自分たちもそういう事をしないと人類がなくなっていくわけですので、その辺りを常に考えていただいて、やはり子育て支援を社会でやるというような考え方を定着させていかないと、なかなか今の若い人たちが結婚して子どもを産み育てようという事にならないと思いますので、その事を常に頭の中に入れて政策考えていただきたいなというふうに思います。お願いします。

知事

ありがとうございます。今日も一部の新聞で出ていたのですが、厚生労働省が 2013 年にやった調査によれば、結婚したくないという人が 5 年前と比べて 1 割を超えたというのが載っていたのですが、見出しがそれだったので、そっちの方が結構インパクトがあるように見えたのですが、実はこれをよく読んでいくと、5 年前と比べて理想の子ども数というのは、5 年前の時は 2 人が一番多かったのに、今回若干ですけど 3 人が一番多いという好材料もどうやらあったようですし、三重県の合計特殊出生率と関係の深いこのデータを見ると、未婚率は、比較的全国の中でもまだ低い方なのですが、有配偶出生率、結婚してからの出生率というのが全国と比べて少し低いというような状

況にありますので、まさにこの木田市長おっしゃっていただいたような子育て支援の部分にしっかり力を入れていかないといけないというふうに思っていますし、それを常に念頭に置いていきながらやっていかなければいけないなというふうに思っています。

2 離島振興施策の推進について

鳥羽市長

はい。2 番目の「離島振興施策の推進について」という事なのですけれども、ここから見ていただくと、左側にある大きな島が答志島です。目の前に坂手島があって、その向こうに菅島、一番奥の方に三角の神島が今日きれいに見えていますけれども、実は三重県に 6 つの有人離島があるのです。鳥羽市にこの 4 つ、それから志摩に間崎島と渡鹿野島の 6 つなのですけれども、鳥羽市は、この離島というのは、非常に景色も良い、漁業も盛んである、文化も昔のものが残っている、非常に魅力的な所という事で、離島振興をしっかりとやって観光に生かしていこうという事でやっているのですけれども、これは鳥羽市にある、あるいは、志摩市にある離島なのですけれども、見方を変えれば三重県にある離島です。だから、離島の事は、鳥羽や志摩に任せてという事ではなくて、やはり三重県の離島だという考え方を知事さんはじめ、みなさんに思っていたかと有り難いと思うのですけれども、この点はどうでしょうか？

知事

そうですね。ちょうど 25 年度に鳥羽市さんと志摩市さんと一緒に「三重県離島振興計画」というのを作らせていただきましたので、「その市の市域にあるので、市の方だけでやればいいのか」というような事は思っておりませんので、後に議論出るかもしれませんが、離島航路とかソフト事業中心になっていますけれども、しっかりその定住環境の整備のためという事で、連携して取り組んでいきたいというふうに思っています。

鳥羽市長

ありがとうございます。今、全国離島振興三重県支部連絡協議会というのがありまして、それは、鳥羽市と志摩市でやっているわけです。それも全国離島振興鳥羽協議会というのが鳥羽市だけでやっているわけなのですけれども、やはり他県へ行くと、全国の離島のある県の半分くらいは、市町でないところが事務局になっているという事なのです。だから、その事務局を県にやってもらいた

いと言っているわけではないのですけれども、そのくらい他では、県や道がそれだけ真剣になってくれているという事も重要だというふうに思うのです。だから、これから離島航路とか色々考えるとお金もかかると、事業関係もお金がかかるといふ事なのですけれども、しかし、そういう事以外に、やはり離島の大事さ、離島の良さ、こういったものが歴然としてあるわけですので、本気になって三重県さんにも考えていただきたいなとこんなふうに思っています。よろしくお願ひしたいと思ひます。

知事

そうですね。今市長おっしゃっていただいた三重県支部連絡協議会の構成に県が入っていないというか、鳥羽市と志摩市だけでやっているというような事で、他の半分くらいの県や道はそうではないという事、私存じ上げていなかったものですから、よく他県を調べながら自分たちもそういう離島振興にしっかり関わっていくぞ、という県の姿勢が見えるような体制についてもよく検討していきたいと思ひますので、まず少し全国調査もさせていただければというふうに思ひます。

鳥羽市長

県が持っているというだけではなくて、その市町だけではないという状況だと思ひます。

3 第76回国民体育大会開催に係る支援について

鳥羽市長

はい。これから6年後、国体が開かれるという事で、三重県の29市町全てでどれかの競技を引き受けるという事になっていると思ひます。その中で、前回は昭和50年で、その時鳥羽市は、相撲とフェンシングだったと思ひます。今回はフェンシングだけなのですけれども、なかなか県外から受け入れるのに、はっきり言ってちょっと恥ずかしいような状況なのです。そして、この国体に来ていただく人たちは、例えば100万都市とか200万都市からも来られるわけで、そういう所に行って感じるのは、素晴らしい施設が今もあるわけです。その人たちが鳥羽へ来てフェンシングやっていただくわけで、「えー、ここでやるの？」というところなのです。それで、当然建て直すかリニューアルする必要があるまして、それは当然どちらかやらないといけないという事は決めているわけなのですけれども、これに対しても県の補助というのは最高1億円、こういうふ

うに決められておりました、ちょっと手薄かなと私は感じております。この補助対象事業というところに「競技施設基準を満たすための必要最小限の整備ですよ」と言っていますし、それから「危険防止のために必要不可欠な整備ですよ」という事ですので、本当にこう最低限の所をみましようという事なのです。けれども、先程も言いましたように、日本全国から来る中で、鳥羽市だけではなくて、鳥羽市とか、あるいは、小さな市町は、非常に恥ずかしいような状況にあるのではないかなというふうに思っております。お隣の伊勢市さんは、陸上競技場も体育館もサンアリーナも全部県営なのです。けれども、鳥羽にはそういうものはありませんので、鳥羽港くらいしかありませんので、やはりこの辺りを共に考えていただけたらありがたいなと思うのです。

知事

はい。施設整備の部分については、本当に今回も運営の面でフェンシングを受けていただいて、本当に感謝しているところであります。全県での取組というふうにしたいと思っておりますので、残りレクリエーション競技などを含めたオープン競技みたいなものは、これからまだはまっていますけれども、なるべく多くの市町で開催できるようにと、ご協力お願いしたいと思っております。施設の整備ですけれども、確かに格好いい施設の方が良いというふうに思いますけれども、やはりこういう昨今の財政状況ですし、コンパクトな国体という事も言われている中ですので、競技ができないという事だとちょっと困りますけれども、基本的に最低限の安全を確保する施設の整備がちゃんと、競技がちゃんとできるという事が大事かなというふうに思っておりますので、先催県などを参考に補助制度作らせていただきましたけれども、まずこれでスタートさせていただければなというふうに思っているところであります。施設整備については、今申し上げたように色々な国立競技場などでも議論になっていますけれども、まず安全にしっかりとした競技運営ができる施設の整備という事が大事なのかなというふうに思っているところであります、施設整備については、そんなところだと思います。

鳥羽市長

6年後という事なのですけれども、これは知事の手でやられようと思っておりますか？

知事

三重県知事が僕であれ誰であれ、しっかり進むように今頑張りたいと思います。

鳥羽市長

はい、ありがとうございます。鳥羽市としても真剣に考えて、来ていただいた方に変な事言われなような、恥ずかしくないような状況にはしたいと、こういうふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

知事

そうですね。あと、施設整備だけではなくて、運営経費のところも先催県、これまでに国体やったところでは、2年前とか3年前とか前年とかそれぞれちょっと色々ありますけれども、それぞれで運営経費の支援という制度を作っているところも多数ございますので、三重県としましても、その運営経費の部分についても、先催県の制度などを参考にしながら、ソフト面では、充実したおもてなしができる、そういう制度・仕組みについて、よく検討をしていきたいというふうに思ひます。

鳥羽市長

運営費というのは、国からは来ないのですか？国体ですから。

知事

そうですね。裏で出してもらえるのか、配分とかは、よくまだ承知していないのですけれども、一定各県が出す部分があるというふうに聞いていますので、国が一部負担してくれるとかそういうのがあるかちょっと分かりませんが、県が持ち出しする部分が結構あるというふうに聞いていますので、そういう制度の検討を先催県にならってしていきたいと思ひます。

(4) 「日本一海女の多い“県”」としてのプロモーションの展開について

鳥羽市長

はい。4番目になるのですけれども、こちらは海女さんの話なのですけれども、日本一海女の多い町という事で、今鳥羽としては、盛んに売り出そうとしております。知事さんもお存知かと思ひますけれども、以前日本に約2千人の海女さんがみえると言われていまして、その頃のデータで鳥羽市と志摩市に約1千名と言われております。その後の全国的な統計というのは、よくわからないのですけれども、現時点では、鳥羽市と志摩市で7百数十名、鳥羽市に5百数十名の方がみえるという事で、おそらく全国的にも1千5百人くらいになっている

のではないかと思っているのですけれども、紛れもなく日本一海女さんの多い町という事が言えるのではないかなというふうに思っております。そういう中で、鳥羽市は、3世代海女さんというのを企画しまして、それが本当にマスコミの露出が大きくて、経済効果50数億とか言われた事もあるのですけれども、実際はどれだけか分かりませんが、凄いなと思っております。今、東京の都営バスに海女さんの泳いでいる姿をラッピングしまして、毎日バス走ってもらっています。先日東京行った時に、だいぶ時間待ちまして「本当にバス来るのか？」という事で、溜池の交差点ですと見ていたら、本当にバスがやってきました、やってもらっているなど安心したのですけれども、そんな事を色々やっていますし、それから、地域おこし協力隊制度というの、今まで鳥羽市はあまり活用していなかったのですけれども、今回海女さんになりたい方を募集したら6人応募がありまして、そして、その中から2人決まりました。東京方面から石鏡の方に来て海女さんをやっていただくという事で非常に喜んでおります。やはり後継者が減っているという事で、心配している中で非常に良い事だと思っております。やはり外国の人たちに対しても、この忍者と海女というのは、かなりインパクトがあるのではないかと考えております。2~3日前もアメリカの方から取材がありまして、それはスーパーウーマンの取材をするような番組だったので、海女さんもスーパーウーマンだという事で鳥羽にも来てもらいまして、全米で放映されるらしいのです。だから、やはりそういうインパクトがあるんだという事で、これからは鳥羽市としては、日本一海女の多い市としてプロモーションやっていきたいと思っております。先程の離島の話ではないのですが、県も日本一海女の多い県と、これは紛れもない、鳥羽市と志摩市ありますので、その辺りを全国へ、また、世界へ発信をしていただくという事は有意義な事ではないかと思うのですけれども、知事さんのお考えを聞かせてください。

知事

はい。「全国海女文化保存・振興会議」というのを、9県の知事さんで作らせていただきまして、私一応会長という形でやらせていただいております。これは、全国的な海女さんの文化財としての保存、あるいは、振興の機運を盛り上げようという趣旨で作りました。最初は、海女が17県くらいかなという事で17くらいに声かけたのですけれども、その会議をやっているうちに「もっといるかもしれない」という、例えば、京都府だと1人とかでしたけれども、「もっといるかもしれないから、ちゃんと調べよう」という事で、今回海のない所は除きまして38の都道府県に全国海女漁状況調査という調査表を配布させていただいて、全国会議でこの12月まで調査をして取りまとめをしていこうと、実際に海

女さんたちの実態を調べて、その振興策をどういうふうにやっっていこうかというのをみんなで考えようという事で、現在、取組を進めているところであります。そういうのも踏まえて、国の文化財にしていこうと、ユネスコの登録に向けて頑張っっていこうというような事で、全体的な機運として、県として、国文化財の指定に向けて基礎資料となるような映像資料を作ろうという事で「海女の一生」という映像記録を今年度、去年は「海女の一日」というのを作りまして、今年度は「海女の一生」というのを作って今年度中に完成させようというふうに思っているところであります。11月に石川県、12月に福井県、来年の1月に三重県で関係県と連携したパネル展を海女についてやっっていこうというふうに思っておりますので、そういう情報発信もこれから続けていきたいというふうに思っています。まず情報発信はここまでです。

鳥羽市長

ありがとうございます。知事さんから言っただいたように、海女サミット、今年答志島という事で、去年は安倍首相夫人も来ていただきましたので、今年も是非来ていただきたいなと思っておりますので、また首相の夫人の方から知事さんから是非「今年も来てほしい」という事をお願いしたいなと思っております。よろしくお願ひします。

知事

そうですね。8月1日にいなべにいなべFM1周年で昭恵夫人がおみえになった時に、控え室にご挨拶にお伺いして、昭恵夫人の方から「今年の海女サミット鳥羽なのですね？」というふうにおっしゃっただいて、そこで来るとか来ないとかはおっしゃっけませんでしたが、それで「答志島であるんです。答志島とは、こういう所です」という寝屋子制度の説明とかも含めてやらせていただいて、大変興味を持っただいてというふうに感じておりますので、改めてご出席のご意向について確認をさせっただいて、是非ともというお話をさせっただきたいというふうに思っております。

鳥羽市長

今の知事さんの発言で多分来ていただけると。よろしくお願ひします。

知事

あと、情報発信だけではなくて、特に昨年度くらいから漁業の方も振興策もしっかりやっっていこうという事で、私が特に「すごいやんかトーク」で国崎に行った時に、みなさんからも教えていただいたようなアワビの種苗を大型化し

て放流してくれというような事も26年度からスタートさせていただいたり、千葉県で成果を上げているコンクリート板でアワビの放流所を作るというような取組もやらせていただいたり、アワビではない時の収入源の赤ナマコの量産技術の開発をやらせていただいたり、そういうような海女さんの所得の向上に繋がるような取組をしっかりと漁業産業振興という観点からしっかりやっていきたいというふうに思っております。また、それについてもご協力いただければと思っております。

鳥羽市長

はい、ありがとうございます。海のない所で湖とかで海女さんはいないですか？

知事

確認してみます。

5 地域減災力強化推進補助金の三重県の方向性について

鳥羽市長

大事な事なのですけれども、1対1対談で直接知事さんにお聞きするような事でもないかもしれませんが、やはり南海トラフの地震等が心配されているのですけれども、そういう心配をしている土地と、それから、あまりそういうのと関係のない所では、意識が違うと思うのです。鳥羽などの所では、まだまだ「地震が来た、大津波が来た、逃げないといけない」というのが、非常に大きいのです。だから、そういう中で今まで避難対策という事で力を入れて、県からも補助を受けてやってきましたけれども、県の方では、避難対策から避難後対策にシフトするというような事を聞いていまして、もちろんそれも大事な事ですし、避難した後、色んな施設が色んな備蓄があるというのは、非常にありがたい事なのですけれども、まずその前に逃げて助かるという、これがまず大事だと思うのです。その辺りを今年でパッと切り替えるのではなくて、柔軟性を持った施策というのが必要なのではないかなとこう思うのですけれども、どうでしょうか？

知事

そうですね。今木田市長おっしゃっていただいたのは、地域減災力強化推進補助金といういくつかメニューがあって、それを市町がやっていただく場合の

半分県が出しますという補助金の事業だと思いますが、ちょうど東日本大震災から5年経って、各市町における避難対策なども進んできたという観点と、それぞれ一定の整備も進んでいる部分もあるので、それを5年経ってもう一度検証して、市町のみなさんのご意見聞いて、これからさらにどういう対策が必要なのかというのを検証して、来年度の事業に設定していこうというふうに考えています。ですので、大まかな方向性としては、今まさに市長おっしゃっていただいたような避難のためだけの対策というよりは、その避難後にどうするかという対策に少し重点を置くような形で整備が進んできているのではないかと、いうふうに概ねみていますけれども、市長おっしゃっていただいたとおり、まだ進んでいない所もありますので、この来年度予算に向けて市町のみなさんのご要望をよく聞いた上で、そのメニューをどうするか、それをよく検討してみたいと思っておりますので、完全にここでシャットアウトという事ではなくて、まだ整備半ばのものとか、新たな課題が生じているものなどについては、十分検討し得るところだと思っておりますので、よく市町のみなさんのご意見と整備の状況を精査させていただきたいと思っております。

鳥羽市長

被害が想定されない地形、例えば、名張市のような所だと津波は絶対来ません。地震にも強いという事で、南海トラフからも離れているという事なのですけれども、やはりトラフから近くて一旦来たら大変な事になるというのは、それだけの大きなハンディーを抱えていますので、当然自分たちの事で安全にやるわけなのですけれども、しかし、県全体としてみてもそういうハンディーがあって、そこへどうしても費用を注ぎ込まなければならないという状況は、まさにその通りの事実ですので、予想のように「こういう地震が来たら何千人亡くなりますよ」とかいう事ではなくて、やはり限りなくゼロに近づける努力というのはしなければならぬと思っております。避難路についても本当に安全に早く逃げられる、これはもう絶対必要な事ですので、共にこれも考えていただけたらありがたいなというふうに思っております。

知事

ありがとうございます。そうですね。まさに市長おっしゃっていただくとおりで、一方、南海トラフ特別措置法ができて、津波の特別強化地域については、国の嵩上げ、避難路についての嵩上げの制度もできたという事実もあると思っております。ですので、そういう意味でも、例えば、名張とかは特別強化地域になっていないけれども、沿岸の地域には、桑名と木曾崎を除いては全部なっているという状況で、その地域は国の嵩上げ制度を利用する事がで

きるという事にもなっているのです、そういうのを組み合わせて、国の嵩上げ制度ができたのに県に同じような制度を引き続き残存させるのがいいのか、それとも国が嵩上げた部分以外の対象外となる所で、まだ未整備の所、課題の残っている所に注力した方がいいのか、そういうのもあると思いますので、いずれにしても、よく市町のみなさんのお話を伺って万全の態勢でいけるような形にしたいというふうに思います。

鳥羽市長

はい、ありがとうございます。最初言わせていただいたように、要望ばかりではいけないという気持ちがあって、対談ですので知事さんの色んな考え方を聞かせていただきたいなと思うのですけれども、最後に私の方から伊勢志摩サミット、この事について日頃から市民のみなさんが感じている事、また期待をしている事、そういう事についてお聞かせ願いたいなと思うのですけれども、他県へ行くと、まず「伊勢志摩サミット決まって良かったな」とこう言われるのです。それから「伊勢志摩サミット決まって大変でしょう」というふうに言われるのです。そのどちらも、本当に良かったんだと思うのですけれども、これを良かったというふうに繋げていくためにはどうしたらいいかという事がなかなか分かりにくいところがあると思うのです。それで、鳥羽市の方も「おもてなし会議」というのを作って、民間の方にも来ていただいて、どういうふうにすれば、この伊勢志摩サミットの恩恵を永年にわたって維持できるかという事について話し合いをさせていただいて、今回も一応 2000 万円程度の事業を考えましてこれをやっていこうと、そして国に対しては、交付金の申請をしようという事で進めているのですけれども、そういった方面の伊勢志摩サミットのメリットのようなものを、あるいは、準備をしなければならないところの知事さんのお考えを聞かせていただきたいのと、それから、私たちが考えで、一つ「配偶者プログラム」というのが一番大きいのかなと思っております。

「配偶者プログラム」って変な名前だなと最初思ったのですけれども、やはり首脳の中に女性がいるのでこうなったんだなと思うのですけれども、それも志摩市でサミットが開かれる、そして、安倍首相の考え方からいくと、伊勢神宮は外せない、それは、私と知事さんが一緒に会わせていただいた時にもそういうのは物凄く強烈にきたのですけれども、必ず伊勢神宮は行かれるという中で、鳥羽市としては、その間にあって、是非首脳陣の連れ合いの方に来ていただいて、特にミキモト真珠島とか水族館とか、あるいは、色んな博物館とか希望している所もあると思うのですけれども、御木本幸吉が初めて養殖真珠に成功して、その時に明治天皇の前で言われたのは、ちょっと言い方違ったみたいですが、よく言われているのは「世界中の女性の首を真珠でしめてご覧に入

れます」と天皇陛下に言われたと。当時、天皇陛下は神様みたいな人ですので、そんな言い方はなかなか難しかったと思うのですが、そう言われたので、まさに今回来ていただいた首脳の方々にネックレスで首をしめるとは言いませんけれども、御木本幸吉の遺言を実現する事ではないかなと、こういうふうに思いますので、それなりの考え、そして、ご尽力の方をお願いしたいと思います。

知 事

ありがとうございます。サミット、今木田市長から 2 点あったと思います。一つは、良かったと言えるためのサミットのメリットとか留意点というような事だったと思いますが、私今サミットが成功と言えるためには 3 つの要素が必要だというふうに言っています。一つは安全であること。安全というのは、来ていただいた方々だけではなくて、暮らしている方々も安全という「安全なサミット」というのが一番成功と言える事が大事だと思っています。これ例えば、2005 年にイギリスで行われたグレンイーグルスサミットの時には、グレンイーグルスとは、スコットランドの凄く遠い所なのですが、ロンドンで地下鉄の爆破事件などもありましたので、そういう県下全域の中で安全であると、暮らしている人も含めて安全であるというのが一つだと思っています。2 つ目は、県下全域の取組になるという事が重要になると考えています。3 つ目は、そのサミット終わった後にちゃんと何か残るといふような事だというふうに思っています。2 つ目と 3 つ目のところについては、特にこのサミット開催までに行われる様々なプログラム、海外のプレスツアー、これは大体十数回やろうというふうに思っています。既にこの 8 月末から 9 月にかけては、中東関係の人たちが多分鳥羽も来る事になっているのではないかと思いますけれども、メディアのみなさんも来ていただく事になっています。十数回やる予定でいます。それから、先程あった配偶者プログラム、そして、高校生たちのジュニアサミット、それから、各国の先遣隊が来て、開催地だけではなくて色々な所を回って「この地域は、こんな良い所なんだ」といふふうに見てもらおうという事などがありますので、いずれにしても、そういう部分で色々なプログラムを通じて、この地域の、鳥羽なら鳥羽、伊勢なら伊勢、伊勢志摩地域なら伊勢志摩地域、三重県なら三重県の知名度をしっかりと上げると、そして、次の行こうと思う選択肢、その投資をしようと思う選択肢、そういうものに上がっていくような事などにかく知名度をしっかりと上げると、体感してもらおうという事だと思っています。それで、今実はダボス会議をやっている世界経済フォーラムというところの日本の国際観光競争力ランキングというのがあって、日本は 14 位なのです。昔 25 位くらいだったのが上がってきているのですけれども、その中をもうちょ

っと見れば、観光事業者によるホスピタリティというのは世界一なのです。競争力世界一なのですけれども、市民のアティチュード、その市民の人たちの受け入れの歓迎度というのが 127 位なのです。という事なので、もちろん知名度上げるためにプログラムなどで情報発信しますが、是非とも一人でも多くの県民のみなさんに、事業者の方たちだけではなくて、ホテルにいる人たちだけではなくて、例えば、タイとか台湾に行ったら普通に日本人だと思ったら話しかけたり微笑みかけたりしてくれるじゃないですか。そういうご協力も是非みなさんにしていただく事がよりメリットの創出に、もう 1 回行こうというふうに繋がると思います。英語とか喋れなくても良いのです。外国人に対して、何か親切にしている、笑顔で接している、そういう事が大事だと思っていますので、そういうのを是非協力してもらおうと、よりメリットが上がっていくのではないかなと思っています。それから、安全のところの関係で安全規制とか交通規制とかについては、なるべく早くみなさんに色々ご説明できるような準備もしたいというふうに思っていますので、そういう辺りもしっかり説明したいと思います。それから、配偶者プログラムですけれども、基本 1 泊 2 日という大変短い配偶者の方の期間ですので、伊勢志摩地域以外に行くのはなかなか難しいので、鳥羽を含めた伊勢志摩地域の中で、いかに行っていただくか、僕はこれから外務省に詳細提案しますが、この前、昭恵夫人ともお話をさせていただいて、単なる物見遊山ではなくて対話をしてもらう、例えば、そのミキモトに行ったら、海女さんたちにもたくさん集まってもらって、海女さんとも対話してもらおうとか、そういう工夫ができるような配偶者プログラムでありたいという事を申し上げていますので、是非そういう色々な中身について、最終的なそれを採用するかは外務省ですけれども、この地域のみなさんと一緒になって提案をしていきたいというふうに思いますし、今回特にオバマさんが最後の最後なのです。ミシェル夫人が最後になりますので、ミシェル夫人は、結構そういう情報発信力とかセレブたちからの注目度が高いので、「ミシェル夫人が〇〇行った」とか「ミシェル夫人が例えばこの真珠買った」とか、そういうのは結構訴求力あると思いますから、実際 2013 年のロック・アーン・サミットの時は、ロック・アーンの帰りにダブリンというアイルランドの首都に行った時に、そこで行ったアイリッシュバーンで食べたハンバーガーが凄く有名になって、「ミシェルが食べたハンバーガー」という事でブワーッと人が集まってハンバーガーが売れまくったというのがあるらしいのですので、是非ともミシェルさんに来てもらえるという、アメリカに向けた発信や働きかけもしたいと思いますし、昭恵夫人に対しては、ミキモトや鳥羽にも来ていただいていますから、ご協力もしてもらえそうな働きかけを外務省も通じながら我々も色々なルートでやっていきたいと思っていますけれども、いずれにしても、ご協力いただく事の方が

多いと思いますので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

鳥羽市長

来ていただいた方の首をネックレスでしめられるかは分かりませんが、私一存では決められませんけれども、私はそう決めております。議員さんもみえますので勝手は言えませんが、できたらそういう事で来ていただけたらありがたいなと思ひます。また、昭恵夫人の方にもよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

(3) 閉会あいさつ

知事

木田市長ありがとうございました。そしてまた、たくさん来ていただいたみなさん、ありがとうございました。市議会のみなさん、本当にありがとうございました。あと中嶋県議と中村県議どうもありがとうございました。今おっしゃっていただきましたように、様々な、特にサミットに向けて様々目白押しである、短期的なエンジンかけてやっていかなければならない部分と、今日木田市長からもおっしゃっていただいたような人口減少や離島振興という中長期しつかり足つけて取り組まなければならない課題と両方あると思ひます。是非これからも連携してしつかり取り組んで参りたいというふうに思ひますので、何卒よろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。